学校関係者評価報告書

Ⅰ重点目標について

令和６年度重点目標
本校の教育目標の達成を実践するべく、教員の人間力・技術力・授業力などを把握、ブラッシュアップして業界に求められる人材を教育、育成する。また、より良い教育環境をつくり、より多くの学生が自己の目標を達成出来るよう学級運営を充実させ、在校生全員の満足度の向上を目指す。 職員間の『報告・連絡・相談』を意識的に、より確実に行えるよう強化する。 先輩教職員は、後輩に対して思いやりをもって指導にあたる。理解しやすい指示を出し、必ずフィードバックをすること、また後輩教職員は、理解不十分なままとりかかることの無いように留意する。 教職員のチームワークを高めることで、効率的に経験値を上げて若手教員の早期育成を目指す。
達成計画・取組方法
１　技術の勉強会や、授業研究などを用い向上を図る。 ２　授業評価制度や専門技術の確認システムを有効に推進する。 ３　最新の業界に関する情報を教職員で共有し学生へと伝える。 ４　ホームページに加え、インスタグラム等 SNS で活動内容を公開していく。 ５　ハイパーQU を導入し、学生一人一人の心理状態を把握する。 ６　良い人間関係を活性化させる構成的グループエンカウンターの活用法を教員研修で全ての教員が習得できるようにする。 ７　全教室に設置されているスマート V ボードの特性を十分に活かし、よりわかり易く効果的な授業を運営していく。 ８　授業などに入る前にはチームメンバーでブリーフィング（直前ミーティング）を行い、流れとテーマの確認を行う。
学校関係者評価
学生満足度向上のための様々な取組みは、今後も引き続き進めていくことを望む。特に、技術力や就職実績を高めていくことは重要であるが、同時に退学者を減らすような取り組みなど、学生支援に関しても力を注いでいくことが必要である。また、時代が変わり、昨今の学生の変化に対しても、選ばれる学校として有益な教育プログラムの提供や適切な専門学校教育を行っていくことが重要であり、柔軟な視点で学校を運営していくことも今後の課題となると考える。

Ⅱ各評価項目について

基準１　教育理念・目的・育成人材像

自己評価	学校関係者評価	改善方策
本校の理念・目的・育成人材像については、わかりやすく具体的に示されており、学生・教職員にもよく周知徹底されている。学外への公表は、主に学校案内パンフレット・ホームページで行っているが、大変好評であり、今後もコンテンツの充実を図っていく。 礼儀・責任・融和を教育するために、社会生活におけるルールやマナー、また道徳についても再教育していく必要がある	適切に対応している。今後も更なる向上に努めて頂きたい。	業界が求める人材像、時代に合った人材像をキャッチし、カリキュラムの見直しと実現性を高めることを的確に行っていく。 また、必要に応じて教員の技術は勿論、業界の現状に関する知識のレベルのアップを計っていく。 教職員が『礼儀・責任・融和』を念頭に学校生活をサポートする。 授業公開やワセビ祭など、保護者が参加できるイベントなどを行うと共に、情報は SNS 等でも周知していく。

基準２　学校運営

自己評価	学校関係者評価	改善方策
運営組織図は明確に定められている。意思決定機能は、幹部会が掌握しており効率的に意思決定がなされている。 教務に関する業務効率化を図る情報システム化は整備されている。また、教職員の業務効率化のため、ほぼ１人１台のパソコンが配置されている。 学生募集に関するデータは管理されており、業務効率化は改善されてきている。 学校の情報提供については、ホームページや SNS を通じて発信している。教育理念や法人概要、シラバス等はホームページでも掲載している。WiFi 等のネット環境を構築し、学生向けに電子ボード（スマート V ボード）を導入して有効な IT ツールを活用した授業を展開している。	概ね適切に対応できている。引き続き整備を進めていき、学生にとって学びやすい環境を整えていく。	校内の建築物や設備においては、設立から２５年が経過しており、老朽化した設備や構築物は順次入れ替えや修復に力を注ぎ、安全で清潔な教育環境の維持を行っていく。 教職員をはじめとして、スキルアップやキャリアアップを目的とした研修を取り入れている。校内における研修制度やスキルアップのプログラムを教育システムとして確立していくことが期待される。 館内無線ネットワーク回線の保守強化と職員用ネットワークのセキュリティ対策を進めていく。

基準３　教育活動

自己評価	学校関係者評価	改善方策
国家試験課題と現場に望まれる技術とのバランスを考えて、カリキュラムを作成している。 人材確保ができていないことが、美容界の現状である。シャンプー、カラーなどアシスタント時の業務に役立つようなカリキュラム作りを行い１日も早く技術者として活躍できるよう考えている。 国家試験課題は、特に学科の苦戦が予想されるため 11 月 1 日の課題発表後より毎日 6 限目は学科対策の授業を行い、実技試験課題の技術向上と並行して知識の積み上げを行う。 業界にとって SNS は重要なビジネスツールであるが、その使い方次第ではリスクになることも伝えて健全な運用が必要なことも教育する 近年厳しさを増すコンプライアンスを念頭に、対人対応しなければならない。教員研修にアンガーマネージメント研修を加えた。	学生の力が付くような教育活動を望む。引き続き国家試験合格率の向上に努めてほしいが、社会人教育にも併せて力を入れていくことが重要である。	授業内だけでなく、イベント等の企画書も学生から受け付けており、企画書作成からイベントを開催するといった業界で求められる力をつける教育にも力を入れている。 ベテラン教員の模擬授業を受けた後、若手が模擬授業を行い、更にフィードバックするといった工夫も行っている。 スマート V ボードを活用して、実技試験終了時の机上の状態をクラス全員で共有するようにしたところ大幅に改善された。 TB19 期ファンウェイシュエンが I CAM BEAUTY ネイルアート部門で Gold 賞受賞。他 2 大会でも入賞した。

基準４　学習成果

自己評価	学校関係者評価	改善方策
毎年の資格取得者数を比較検討し、資格試験対策を行っている。試験に対する意識の低い学生に対しては放課後のフォローを実施している。 目標達成と生徒指導の充実を図るため、毎日全職員で朝礼・終礼を行い、学生の状況を報告し合い、必要に応じて早めの情報収集と教育相談等にあたり必要な指導を行っている。 大学全入時代と言われ、学力審査なしで大学へ入学できるようになった昨今、入学生の学力低下が問題となる可能性が高まっている。国家試験の受験を控える美容科は、対策が求められる。	高校時代に部活を頑張っていた学生などで良い成果を出している者もいる。国家試験へ向けて、自ら学習できる者は良いが、それが難しい者に対しては、学習方法の教育から始めていく必要がある。 。	指導方法と正答率との関連性を調査する 同窓会や各学科教員の協力体制を強化し、常に新しい情報収集することを心がける。 近年増加傾向にある業務委託契約と雇用契約との違いなど、働き方に関する教育が課題。 実技対策に入ってからも学科対策は並行して行う。

基準５　学生支援

自己評価	学校関係者評価	改善方策
就職支援に関する体制は整備されており、求人に関する最新情報の学生への伝達、説明会や面接の申し込み等の企業への連絡もスムーズに行われている。活動状況を就職課で把握している。 学生相談に関しては担任、学年主任、部長等で連携を取りながら行っている。今後は留学生にも相談しやすい環境づくりをしていく。 経済的な問題を抱える学生に対しては、奨学金の利用ができるよう取り計らっている。また希望者には分納にも応じている。 学生の健康管理は学校として年１回の健康診断を行っている。ふだんより病気予防のための指導をクラスで行っている。 地方からの入学者に対しては親身に住居の相談にのり、学生寮・アパート等の紹介を行っている。 出席状況に問題が生じた学生に関してはいち早く保護者への報告を行い、状況によっては、保護者との面談も行っている。 校友会の活動としては年に１回イベントの開催を行っている。(令和２年度については新型コロナウイルス感染症予防のため中止、令和３年度については規模、会場を縮小し開催、令和４年度は従来通り（一部規制あり）で開催、令和５年度からはほぼ従来通りの内容で開催) 卒業生が特別授業を行い、将来設計の仕方をアドバイスする時間を設けている	概ね適切に対応している。今後も更なる向上に努めて頂きたい。	精神面に問題を抱えている学生が以前より増えている。保護者と連絡を取り合い情報の共有を心掛ける。 学校生活に対する学生の満足感や充実感を上げ、安心して学校生活を送れるよう新たに『hyper-QU』（アンケート）を実施し、学生一人ひとりの傾向や問題点などを各担任が把握している。 学校公式の SNS を学生にフォローさせて、災害時の伝達を配信している。 全学生の保護者にもポータルサイトに登録してもらい、緊急時以外の連絡事項なども一括で送信できるシステムを導入した。 新たに YouTube 部を発足し、動画撮影、編集、登校などの活動を行っている。 新たにピアヘルパーの授業を取り入れ、教員、学生全員が資格取得を目指している。 日本教育カウンセラー協会認定のスクールカウンセラーが常勤し、精神的なサポート体制を整えている。教員研修などでは、今まで以上に指導や配慮の仕方について学んでいる。

基準６　教育環境

自己評価	学校関係者評価	改善方策
サロン実習や国内研修等、多くの研修を行える環境が整えられており、教育内容は充実している。 サロン実習では、多くのサロン様に協力して頂き、サロンワークを学ぶことが出来る。就職試験に向けて重要な経験となっている。 全クラスにスマートＶボードを導入し、担任にはｉＰａｄを配布。板書の時間や説明を事前に資料や説明動画を作成することによって合理的かつ能率的に授業の進行が出来た。 毎年防災についての映像を消防から借りて、全校生徒で情報を共有している。 クラスの代表者が直接消防署に赴き、消火器の扱いの実習訓練も行っている。 全校生徒の本校からの距離を把握し、距離に応じた行動計画を策定した。教室には災害マニュアル、ヘルメット、メガホン、笛を常備。 学生に対して災害時に使用できる防災対策用品セットを配布している。 フロア責任者を配備して、学生下校後の教室の状況、破損、戸締りについてチェックを行っている。 国内研修旅行では京都にて伝統文化を学ぶことができる。グループワークで自主性も身に付ける。	ITを効果的に利用することは重要であるが、学生に現場の生きた情報を伝えることも重要。今後も更なる整備を推進して頂きたい。	授業を行う上で、更に良い教育環境を整備していく。 スマートＶボードをより有効活用するためにアプリの研究や編集テクニックの経験を積んで、授業だけでなくホームルームの伝達や学年ごとの共有ツールとしても活用していく。 SNS で学生が発表できるように学校のインスタグラムでメンションを促し活発に動かしている。 行事などの場面でもスマート V ボードを活用し、地上デジタル放送による校内中継や、インターネットを使った ZOOM 中継など時代に則した活用方法を見出していく。 YouTube クラブやフォトシューティングクラブの動きが活発で、学生達の発表の場が豊富に用意されている。また、本格的な機材に触れ就職した後にも活きる経験を積むことができる。 撮影設備、写真編集ソフトなどを駆使して作品のレベルを上げることができるようスキルを上げていく。 新たに出席管理のシステムを導入予定。これによって出席状況が逐一保護者に伝わるようになり、保護者への連絡面が改善される。

基準７　学生の募集と受入れ

自己評価	学校関係者評価	改善方策
高等学校への情報提供は、進学相談会への参加、また高等学校教員には個別訪問を積極的に行っている。学生募集に関しては、適切に行っており、学校案内やパンフレット・ホームページには特色を分かり易く標記している。また、体験入学や入試説明会を月２回以上行っている。 入学選考基準は、規定で明確に定めている。選考や合否判定は適切に行っている。入学選考の実績に関しては、クラウドシステムで管理し、学力に応じた指導を入学後行っている。 学生の能力及び経済力を考慮した学納金を算定している。徴収金額はすべて明示している。 入学辞退者に対し、授業料等の返還は学則・募集要項で明示している。 高等教育の修学支援新制度の認定対象校としての登録を受けている。（令和６年度）	Instagram や TiktoK、YouTubu などの SNS は、企業活動において重要なツールになりつつある。学生募集においても、SNS を有効に活用し、成果を上げて欲しい。	ホームページに Instagram、TikTok、YouTube などの導入を積極的に行っている。 入学情報提供の Instagram を作成。フォローを密におこなう。 体験入学予約時に希望する実習を選択するなど工夫をしている。 入学選考において課題提出を選択制にするなど工夫している。 志望者の状況を考慮し入学選考日を増やした。 また、体験入学会の進行プログラムを見直し、より効果的な PR を施している。

基準８　財務

自己評価	学校関係者評価	改善方策
財務基盤については、応募者数等の数字の把握は毎年行っており、収支のバランスはとれている。 資金収支やコスト管理については部門ごとに月次で適切に行っている。 教育目標との整合を図って予算編成を策定している。編成過程及び決定過程は明確になっている。 予算執行にあたってのチェック体制は学園本部で行っており、適切な会計処理を行っている。 監査は私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に実施し、理事会等で報告している。監査法人による監査を年２回実施している。 財務情報については、ホームページで公開している。	適切に対応している。今後も更に健全性が保たれていくような運営を希望する。	財務基盤の安定を保ち、好調な学生募集と効果的な教育活動により、学校の規模拡大に対応できるような財務活動を目指していく。

基準９　法令等の順守

自己評価	学校関係者評価	改善方策
関係法令等を遵守し、適切に学校運営を行っている。また、必要な諸規定を整備している。 個人情報保護に関する規程や、情報機器使用についての規定は整備している。 個人情報をはじめとする機密情報について、セキュリティの強化や、職員への啓発および教育を引き続き行っていく。 自己点検・自己評価は組織的に、毎年度行なっており、毎年度、自己点検評価報告書を作成し、学校関係者評価委員会を行い、その結果をホームページで公表している。 学校の概要、教育方針、教育内容、学校行事等については、平成２６年度よりホームページにて公開している。その他の公開情報についても、同様に web で公開している。	適切に対応している。今後も更なる向上に努めて頂きたい。	社内における管理体制の強化や規定の作成等、更なる整備を進めていく。 個人情報保護規定に基づく校内システムの構築を推進していく。 情報の公開については、発信できる内容は、ＳＮＳ等を活用して関係者へ有益な情報を発信していくとともに、一方で保護されるべき情報の管理についても、コンプライアンス体制を強化し対応していく。 最近の社会情勢を鑑み、職員の就業規則の大幅な変更を行った。（令和６年３月）

基準１０　社会貢献・地域貢献

自己評価	学校関係者評価	改善方策
開校当時から社会貢献やボランティア活動に対して意識が高く、新宿区で毎月行われている「ポイ捨てキャンペーン」には、当初から欠かさず参加している。 教職員の声ばかりでなく学生自身からも提案があり、「エコキャップ活動」も行っている。 高校の職場体験の機会を提供している。 消防庁の火災予防運動に協力しており、感謝状を東京消防庁より授与されている。 令和 7 年 2 月 19 日（水）新宿区ささえあい館にて学生 5 名を引率し、ボランティアを実施した。	適切に対応している。今後も引き続き社会貢献活動の実施に努めていただきたい。	都立松沢病院からボランティア活動に対して、感謝状を頂き、今後も患者様の療養生活の質の向上に努めていくが、本年度はコロナウイルスの影響で実施できない状況である。 選挙権年齢が 18 歳以上となり、校内にポスターの掲示や政治セミナーを行い投票に行くよう各クラス促していく。 各種ポスター掲示により、社会貢献活動に参加を促している。